

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019 第1号(上級生版)

生徒の皆さんへ！今年もまた1か月に1回の割合で校長便りを発行していきます。ぜひ、今年の大きな目標である「主体性」を伸ばしていくためにも読んで参考にしてください。保護者の皆様もぜひともお読みいただければ幸いです。今年は私にとって公立高校に勤める最後の年になります。1年間で自分の持っている知識やノウハウをできる限り伝えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

1月以後、この「至誠」をHPに掲載してもらおうようになって、何人もの外部の人から「校長便り読んでるよ」と言葉をかけていただきました。非常にうれしいことですし、改めてSNSのすごさを感じています。私は校長としての仕事はもちろんですが、キャリア教育やアクティブラーニングなどを普及していくことも大きな目標としてやってきました。実践を始めて約20年。当時と比べると「キャリア教育」＝「社会で生きる力の育成」というコンセプトもずいぶん広まってきましたし、なにより新たな学習指導要領では「資質・能力の向上」「社会に開かれた教育」など、我々が主張し続けてきた「キャリア教育」の本質がストレートに表現されるようになりました。これもまたうれしいことではありますが、一方ではまだまだ「大学に合格することが目標の教育、学習」「就職することが目的の教育、学習」も多く見受けられます。私は退職後もひとりでも多くの人たちに「キャリア教育」を伝えることで、「自分もみんなも幸せに生きることができる社会」に貢献できればと考えています。そのためにも、まずこの1年は四日市商業の皆さんです。

1. あらためて「不易流行とキャリア教育」

本校に赴任して1年。実は私が皆さんに語ってきたことは多くありません。突き詰めれば「不易流行」と「キャリア教育」の2つに尽きるのではないのでしょうか。昨年度は集会や式でのあいさつ・講話でも10回以上話をしましたし「校長便り」も8回発行していろいろなことは書いてきているのですが、内容的にはこの2つを具体的に落とし込んで書いているだけです。だから皆さんの中には「校長は同じことばかり言っている（書いている）」と感じている人も多いかもしれません。しかし、そう思ってもらえているとしたら非常にすばらしい。狙い通りです。大体において校長の仕事というのは学校の方向性を決めていく中心にはなる必要がありますが、大枠を決めたらあとは先生方にお任せするのが仕事（だから生徒との触れ合い、交流がなく非常に寂しいものです）。また、こういうふうに学校を持っていきたい、と思っても1年に一つか二つ新しいことをやれたら上出来です。ましてや四日市商業のような伝統のある学校においては、長年息づいてきている、変えられないもの、変えてはいけないもの（もちろん、それが「至誠」です）がありますから丁寧に新たな学校の姿を示していかなければいけません。一方で、時代や社会の変化に沿って

変えていかなければならないものがあります。これを「流行」と呼んでいます。現在の教育に必要なものがこの2つであり、昨年度は「不易流行」と叫んできたわけです。人間として社会人として皆さんが生きる時代に必要な資質・能力を、「不易」を大切にしながら「キャリア教育」を実践することで向上させたいというのが私の願いです（「不易」の中にもキャリア教育の要素があるのは去年も言ったとおり、ここだけは勘違いしないでね）。

「キャリア教育」とは、「社会で生きる力をつける」教育（もちろん仕事も社会で生きるための重要なパートをしめるが、仕事での力をつける職業教育とは私ははっきり区別している）であり、その中でも私は「未来社会において、自分も幸せに、みんなも幸せに生きることができる」ような気持ちと資質・能力を育成することを重視して教育実践してきたつもりです。そのためのキーワードが（去年も書いた）「主体性」「自立」「共生」の3つです。この中で今年、新たに皆さんに知ってほしい、その力をつけてほしいのが「主体性」なのです。

2. 「主体性」とは？

「主体性」の辞書上の意味は「自分の意志・判断によってみずから責任を持って行動する態度や性質」（大辞林）とあります。よく似た言葉に「自主性」があり、私も数年前までは混同して使っていました。どこに違いがあるのか。「自主性」は「与えられた目的がはっきりしていてその達成のための方法を自分で考える」のに対して「主体性」は「やるべきことが決まっていないときに自ら考えて目標・目的を決めて動く」ところに差があります。つまり「自ら考え（思考力）目標・目的に向かって積極的に行動する」ことは同じですが、「自ら（時には周りとは協働して）問題・課題を思考し、発見する」ことがプラスされるわけです。言い換えれば「自主性」は「課題解決力（行動力も含む）」であり、「主体性」は「課題発見力+課題解決力」だと思います。私は予測がつきにくい未来社会において必要な能力はこの力だと考えています。

思い出してください。昨年何回も何回も繰り返していった言葉。「気づき（自ら発見する力のことですね）」と「気配り（それを行動に移すことですね）」。これらを意識し行動することで学校の中でも日常の生活の中でも「課題発見力」や「課題解決力」を向上させることができます。新学習指導要領で大変重視されている「探究活動（皆さんの授業では課題研究がこれに相当する）」。もちろん、「探究活動」「探究学習」はとても大切です。それを実際の社会に出てトレーニングすることで経験を積み、社会で生きる力を高める。これも昨年来、言い続けてきたことです。それに加えて、今年度は「主体性」を鍛えて日常生活の中でも「気づき」「気配り」の能力を高める。「社会で生きる力をつける」「みんなが幸せに生きる力をつける」意味での「キャリア教育」において大きなテーマにしたい理由がわかってもらえるでしょうか。

（4月26日）